

5. 水辺アンケート調査結果

5-1. 小学生水辺アンケート

■回収状況と集計方法

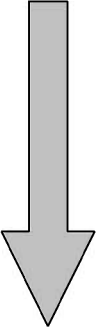
本市の小学校5年生(23校 2,129人)を対象として、平成18年10月に実施しました。

対象学年設定の考え方は、3年生からの総合学習の中で環境学習に取り組んで3年目を迎えること及び上級生として個々の判断で回答する能力が備わってきていることなどから、5年生としました。

- ・配布数 : 2,129通
- ・回収数 : 2,058通
- ・回収率 : 96.7%

全体的な傾向を把握するために単純集計を行うとともに、地域ごとの環境特性に応じた傾向を把握するため、小学校の所在から「市街地」、「市街地・田園」、「田園・山間」の3つの地域に区分し、クロス集計を行いました。

クロス集計の小学校区分

自然度	区分	小学校名
低  高	主に市街地を校区とする小学校	相川小学校、愛甲小学校、厚木小学校、厚木第二小学校、清水小学校、妻田小学校、戸田小学校、戸室小学校、南毛利小学校、緑ヶ丘小学校、毛利台小学校 (計11校)
	主に市街地と田園地帯を校区とする小学校	依知小学校、依知南小学校、荻野小学校、上依知小学校、北小学校、三田小学校、鷺尾小学校、森の里小学校 (計8校)
	主に田園地帯と山間を校区とする小学校	飯山小学校、上荻野小学校、小鮎小学校、玉川小学校 (計4校)

次に、結果概要、アンケートの設問と回答を示します。

■結果概要

- 水辺を利用しない小学生が約4割を占めている。
- 「河川や川原」の水辺が最も利用されている。
- 水辺の利用内容は、「水遊び」、「キャンプやバーベキュー」などレクリエーション・レジャー系の活動が多い。これは、今後参加してみたい活動としても人気がある。
- 田園や山間に居住の小学生の方が市街地に居住の小学生より、「自然を楽しむ水辺の活動」に親しんでいる。
- 過半数の小学生が水辺を「楽しい遊び場」と評価している。
- 市街地の水辺の方が「きたない」と評価する小学生が多い。
- 「自然豊かな水辺」を望んでいる小学生が全体の7割近くを占めている。
- 自由記述では、次の内容が多く見られた。(計 1036 通)
 - i) 美しい水辺を望む意見
 - ・ごみが多い、きれいにしてほしい 等
 - ii) 水質の改善を望む意見
 - ・水をきれいにしてほしい 等
 - iii) 安全な水辺を望む意見
 - ・川は危険だから遊ばない、子どもだけでも遊ぶことができようしてほしい 等
 - iv) 水辺の保全、再生
 - ・もっと自然があるようにしてほしい、もっと魚などが住めるようにしてほしい 等

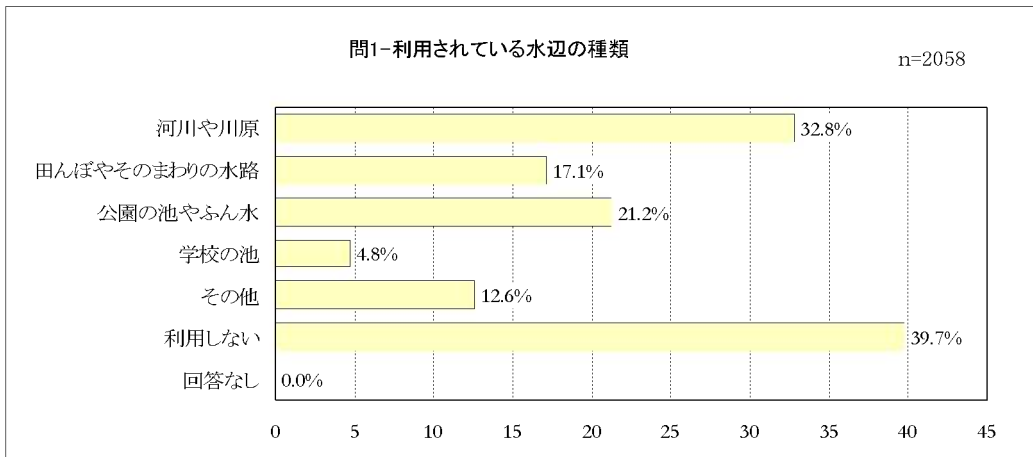
■アンケートの設問と回答

①利用されている水辺の種類

問1：「あなたはふだん水辺を利用することがありますか？またどのような水辺を利用しますか？」

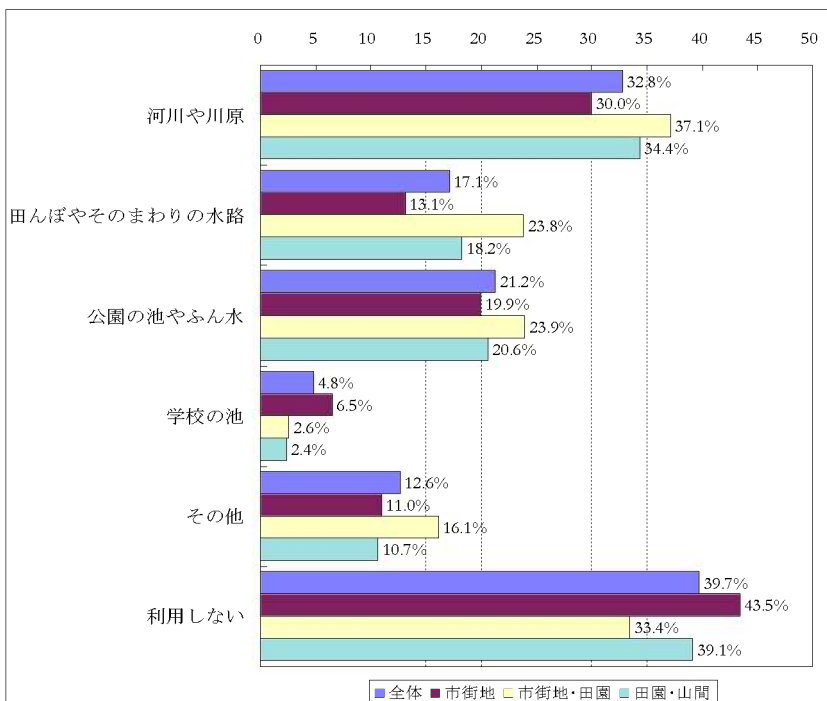
・ 単純集計結果

「利用しない」という回答が4割弱(39.7%)と最も多く、「河川や川原」という回答が3割強(32.8%)とその次に多い。一方で、「学校の池」という回答が1割未満(4.8%)と最も少ない。



・ クロス集計結果

身近に自然的な環境が広がる市街地・田園や田園・山間に居住の小学生の方が、市街地に居住の小学生より水辺を利用しており、市街地に居住の小学生は、学校の池の利用割合が高く、重要な水辺となっている。

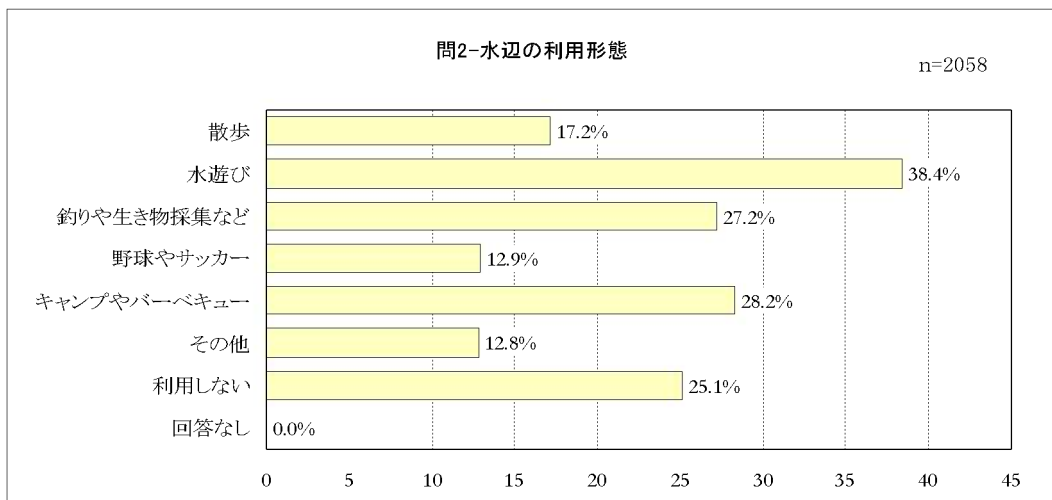


②水辺の利用形態

問2：「あなたは水辺をどのように利用しますか？」

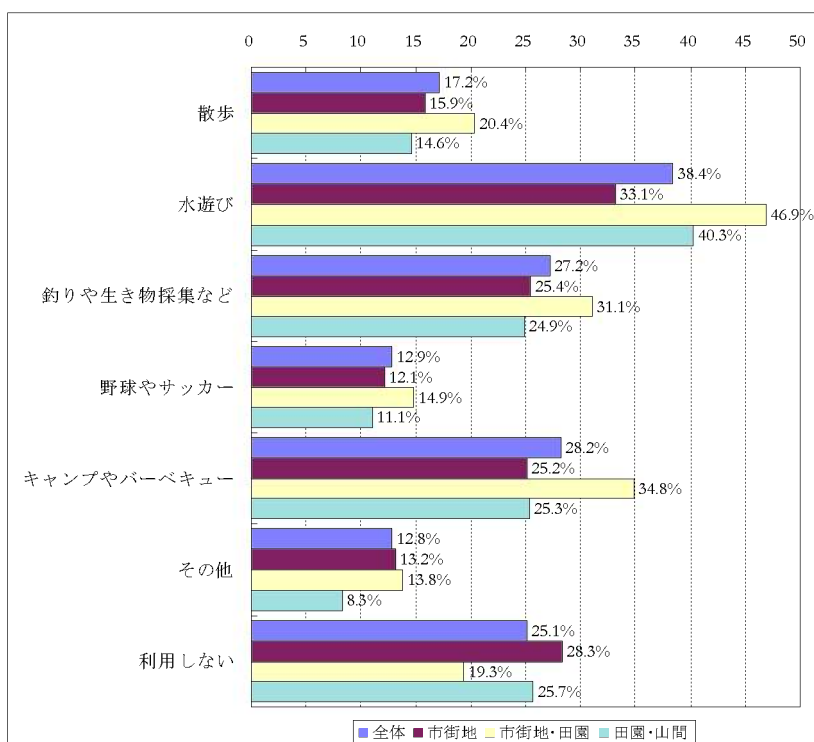
・ 単純集計結果

「水遊び」という回答は4割弱(38.4%)、次いで「キャンプやバーベキュー」という回答が3割弱(28.2%)とレクリエーション・レジャー系の活動が多い。一方で、「野球やサッカー」という回答は1割強(12.8%)と少ない。



・ クロス集計結果

「水遊び」や「キャンプやバーベキュー」、「釣りや生き物採集など」といった自然に親しむ活動ほど、身近に自然的な環境が広がる市街地・田園や田園・山間に居住の小学生の方が、市街地に居住の小学生より親しんでいる。



③水辺の現況

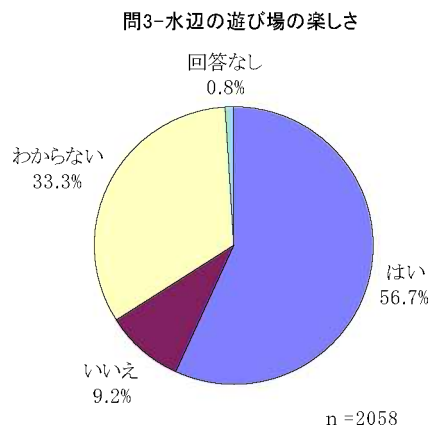
問3：「あなたの家のまわりの水辺はどのような状況ですか？」

➤ 水辺の遊び場の楽しさ

ア：「水辺の遊び場は楽しいですか？」

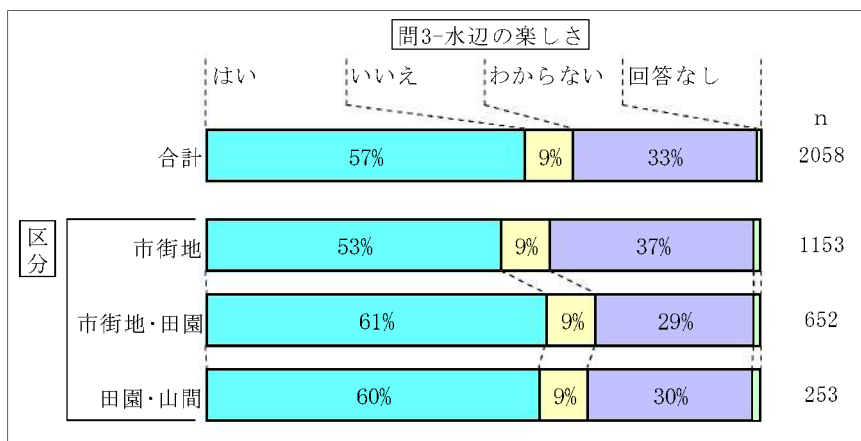
・ 単純集計結果

水辺の遊び場を「楽しい」と評価する小学生が過半数(56.7%)を占めている。一方で、「わからない」など水辺への関心が低い、若しくは水辺の環境を知らないと思われる小学生も全体の三分の一を占めている。



・ クロス集計結果

全体的に地域による大きな違いは見られないが、多様な水辺がある市街地・田園や田園・山間に居住の小学生の方が、より水辺を楽しんでいる。

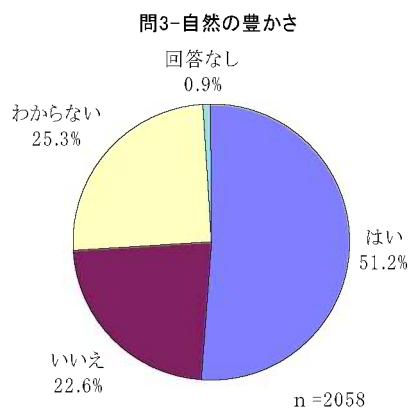


➤ 自然の豊かさ

イ：「自然がたくさんありますか」

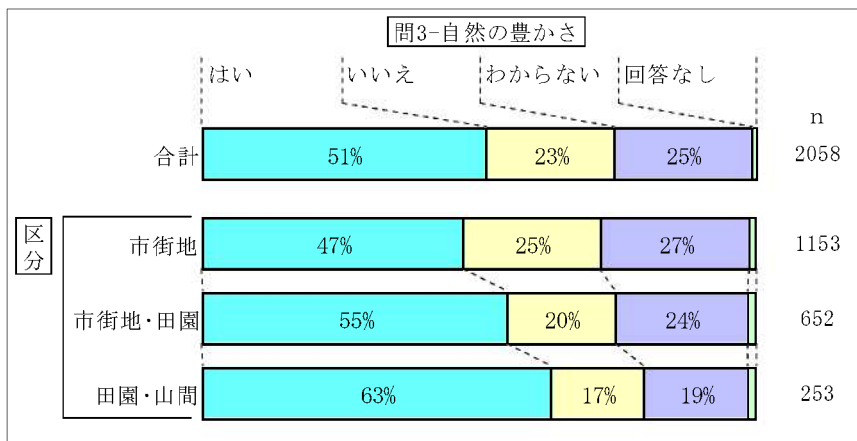
・ 単純集計結果

過半数の小学生が、自然が豊かであると認識している。



・ クロス集計結果

多様な水辺がある田園・山間や市街地・田園に居住の小学生の方が、市街地に居住の小学生より自然の豊かさをより認識している。

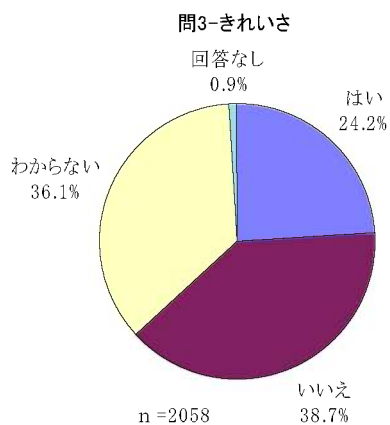


➤ 水辺のきれいさ

ウ：「きれいですか？」

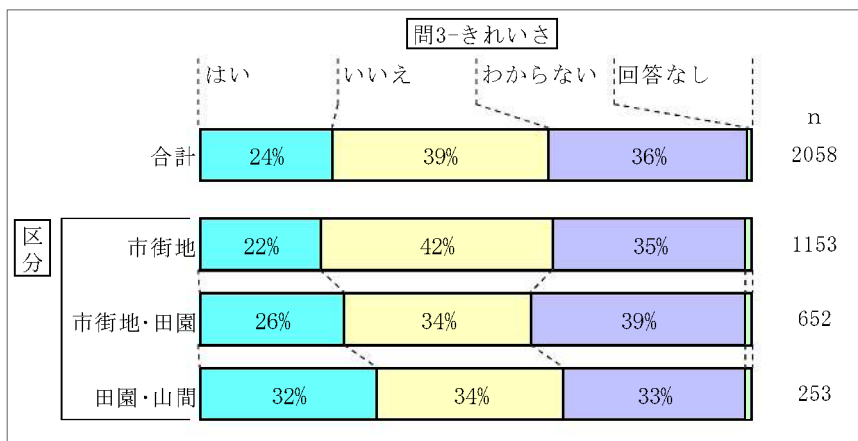
・ 単純集計結果

「いいえ」という回答が、4割弱(38.7%)と「はい」(24.2%)を大きく上回り、美観面での評価は高くないことが伺える。



・ クロス集計結果

どの区分でも、「きたない」と感じている割合が多いが、特に市街地に居住の小学生は、「きたない」が「きれい」の2倍程度となっている。

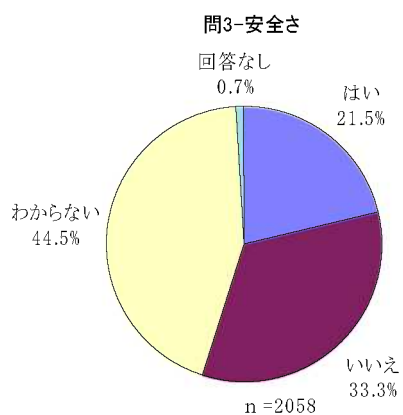


➤ 水辺の安全さ

工：「水辺は安全ですか？」

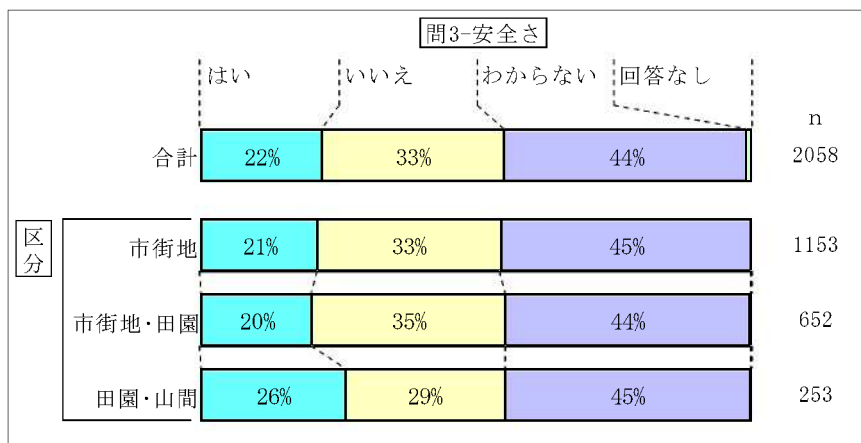
・ 単純集計結果

「わからない」が4割(44.5%)を超えているが、「いいえ」(33.3%)は「はい」(21.5%)を上回り、水辺は危険な場と評価する小学生が多い。



・ クロス集計結果

地域による大きな違いは見られないが、田園・山間に居住の小学生は、「はい」という回答が他の地域に居住の小学生に比べて多くなっている。

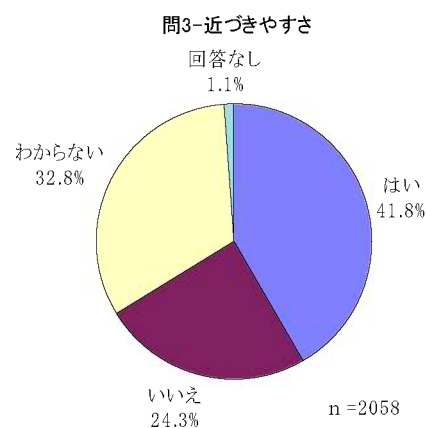


➤ 水辺への近づきやすさ

オ：「水辺へは近づきやすいですか？」

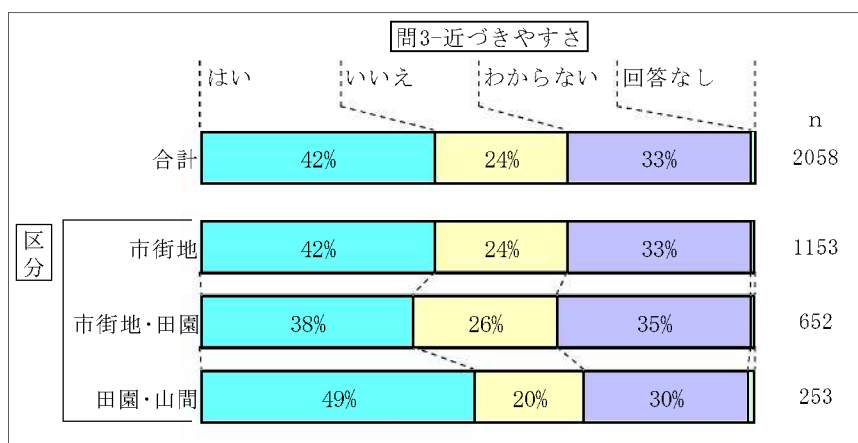
・ 単純集計結果

「はい」(41.8%)と答えた小学生が多いが、近づきにくいと評価している小学生も四分の一近くを占めている。



・ クロス集計結果

田園・山間に居住の小学生は、「はい」という回答が約半数と高い割合を示し、他の地域に居住の小学生より自然の護岸や緩やかな護岸への希望が多いといえる。

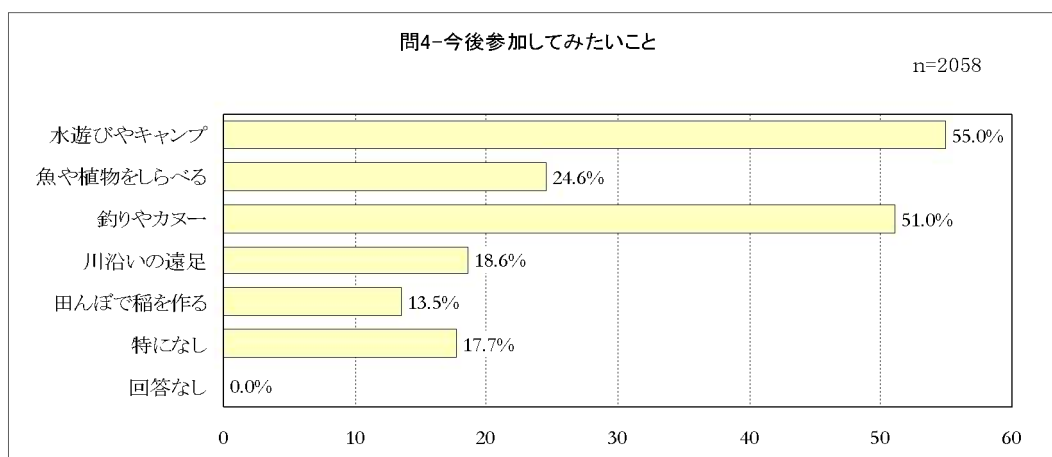


④今後参加してみたいこと

問4：「あなたが今後参加してみたいことは何ですか？」

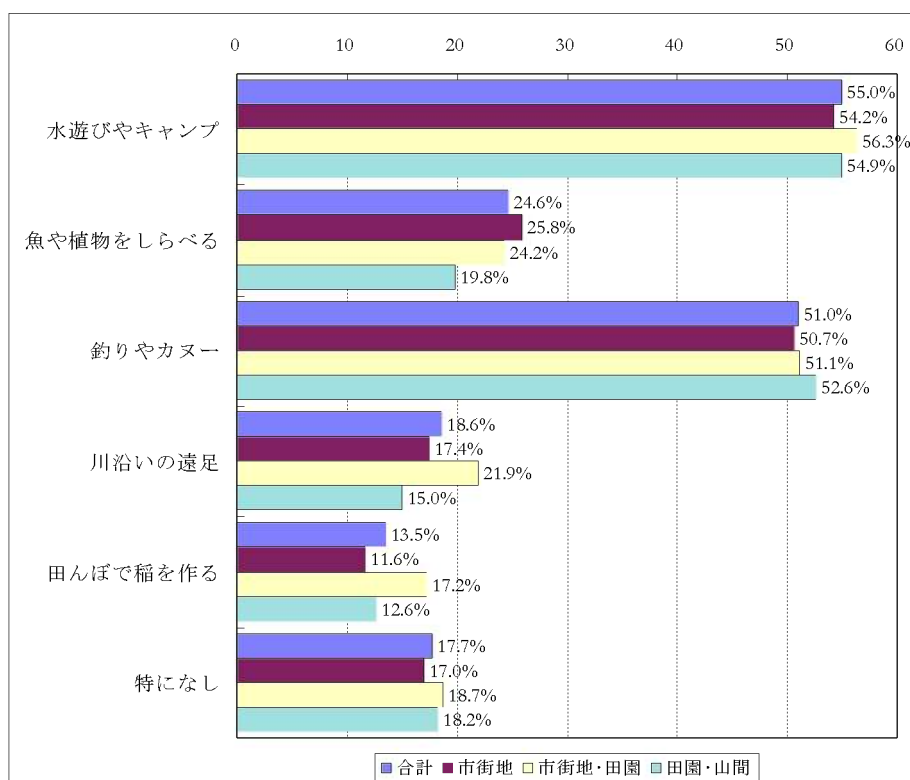
・ 単純集計結果

「水遊びやキャンプ」、「釣りやカヌー」といったレクリエーション・レジャー系の活動に関心が高いことが伺える。



・ クロス集計結果

市街地・田園に居住の小学生が、「川沿いの遠足」、「田んぼで稲を作る」について他の地域に居住の小学生より若干多いこと、田園・山間に居住の小学生が、「魚や植物を調べる」について他の地域に居住の小学生より若干低いことを除くと、地域の差はほとんどない。

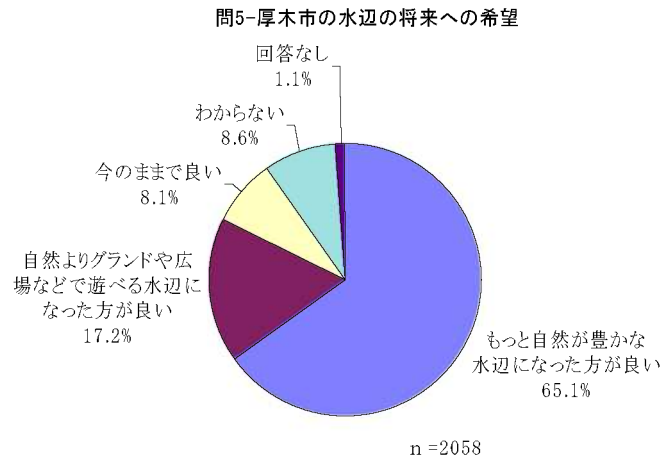


⑤厚木市の水辺の将来への希望

問5：「あなたは厚木市の水辺が将来どうなると良いと思いますか？」

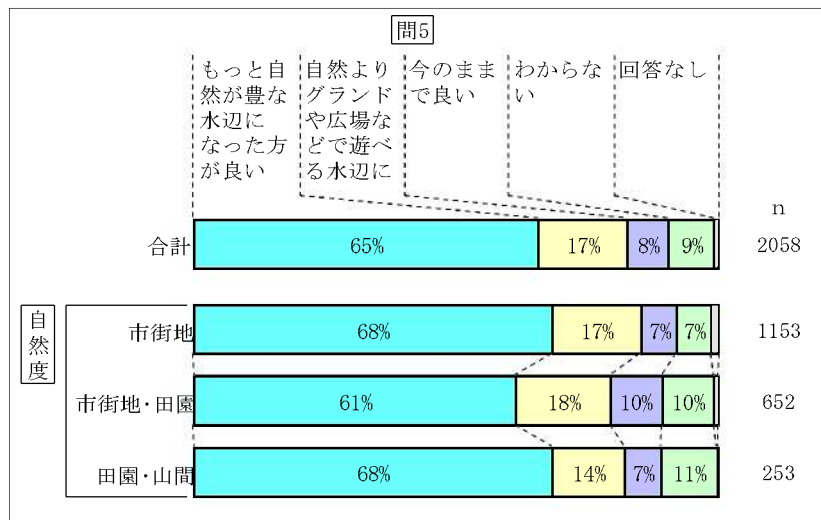
・ 単純集計結果

「もっと自然が豊かな水辺になった方がよい」という回答が7割弱(65.1%)を占め、自然豊かな水辺を望んでいる小学生が多いことが伺える。一方「自然よりグラウンドや広場などで遊べる水辺になった方がよい」という回答は、2割弱(17.2%)となっている。



・ クロス集計結果

市街地・田園に居住の小学生が、「今のままでよい」について若干多いことを除くと、地域の差はほとんどない。



⑥自由記述

問6：「ふだん思っていることがあれば、自由に記入してください」

<現状への評価>

現状については、「安全でない」、「川がきたない」、「生き物が少ない」という意見が多く寄せられました。少数ですが水辺に行きたいのに親に止められるという意見も見られました。

安全でない

- 川原にガラスなどが落ちていて、足などを切っちゃうから危ないと思います。
- 遊ぶのは楽しいけど危ないんじゃないかなと心配になるときがある。(特に川や水路)
- 小さい石がいっぱいあって危ない。
- みんなで行くなら近づけるけど、自分から近づこうとはしない。
- 雨が降ると水が増えて危険。
- 草が生えすぎていてとても近づきにくい。
- 学校などで川は危ないと言われる時がある。だから、だんだん川にいる人がいなくなったり、川と接する機会がなくなっている。

川が汚い

- 池の水は最近汚くなってきていると思います。
- ゴミが落ちていてきたない。
- とても不衛生だからなかなか遊べない。
- 池や川はなぜ汚いの？水が濁っている。
- 水の量が少ない。水がきたない。
- 川にいろんなゴミがあって危ない。

生き物がいない・自然が少ない

- 生き物があまりいない。
- 水が不潔。生き物が少ない。
- 自分がいいと思う水辺より緑が少なく汚い。
- 小鮎川っていう名前なのに川に鮎がいない。

水辺に行きたいが行けない

- 親に子供だけで行ってはいけないと言われるけど、どうしても川に行きたい。
- 池や噴水の水で遊びたいのですが、母が「水が汚いかもしれないから触らない方がいい」と言うので遊べません。

<将来への期待>

将来への期待は、「水辺をきれいに」という意見が多く、次いで「自然を大切に」や「もっと水に親しめるように」、「水辺を安全に」といった意見が多く挙げられています。「スポーツ・レクリエーションがしたい」という意見も少数ですが挙げられています。

水辺をきれいに

- 相模川をもっときれいにしてほしい。
- ゴミを集めたりする活動をした方がいいと思います。
- ゴミをなくせば、もっと川遊びが楽しめると思う。
- 川岸をきれいにしてもらいたい。
- キャンプやバーベキューなどの後にゴミを持ちかえってほしいです。
- 川や池にゴミを捨てないようにしてほしい。
- 田んぼの周りの水がきれいになってほしい。
- もっと田んぼがきれいになればいいと思います。
- お花を増やしてほしい。

自然を大切に

- あんまり河川や水路をほんないで、水路はそのまま自然が大きいほうがいい。
- これから公園の池や河川、田んぼ、水路がいつも自然であってほしいです。
- いっぱいの自然(原っぱなど)を作って未来の川辺をきれいにしたいと思っています。
- 少し雑草が残るくらいの自然がいい。人も遊べて自然がたくさん川がいい。
- 川でバーベキューの道具を洗わないほうがいい。生き物が消えていく。自然破壊になる。
- 生物を観察したい。
- 川がちょっと汚い。魚や鳥がいっぱい集まるきれいで安全な川がほしい。
- 魚が多くいるほうがいい。
- 家の近くの川には鴨がすんでいる。だけど、その鴨のためにも川を汚くしてはだめだと思う。

もっと水に親しめるように

- 公園に池や噴水を増やして、楽しく水遊びができるようにしたい！
- たくさん池が増えたらいい。
- 水遊びができるような浅い川がいい。
- 相模川付近に噴水がほしい。もっと水とふれあいたい。
- 公園に大きい池があって、魚がいて、釣りができたらいいな。
- 学校に池がほしい。
- もう少し川で遊べるようになってほしい。
- 雑草がたくさんあるので、もっと手入れをしてほしい。
- 田んぼの横の溝をもう少し浅くしてほしい。

水辺を安全に

- すべるところがあるから多少でも川からすべらないようにしてほしい。
- もうちょっと安全に利用できるようになったらいいと思う。
- 川の近くに車とかを止める人がいるから、止めてほしくない。
- 川の水が多すぎるから減らしてほしい。おぼれる人もいるから。
- 川・田んぼの周辺などは危ないと親に言われるのであまり利用しません。安全な水辺を希望します。
- 少し急な流れなのでもう少しなめらかに流れてほしいです。

スポーツ・レクリエーションがしたい

- 公園をつぶしてサッカーグラウンドをつくってほしい。
- 野球グラウンドに水辺がほしい。野球グラウンドがほしい。
- 野球やサッカーなどのスポーツができる場所があるといい。
- 自転車で思いっきりサイクリングをしたい。
- カヌーができればいい。
- グラウンドや広場があった方がいい。

5-2. 市民水辺アンケート

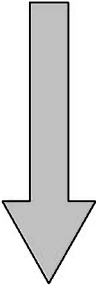
■回答状況と集計方法

広く市民を対象として、平成 18 年 10 月 1 日から 31 日までの 1 ヶ月間、市ホームページと地区市民センターなどで実施しました。

- ・回答数 : 215 通
 - 市ホームページ回答数 → 37 通 (アクセス数 454 件)
 - 地区市民センター回答数 → 159 通
 - その他回答数 → 19 通

全体的な傾向を把握するために単純集計を行うとともに、地域ごとの環境特性に応じた傾向を把握するため、地区市民センターの所在から「市街地」、「市街地・田園」、「田園・山間」の 3 つの地域に回答者の居住地区を区分し、クロス集計を行いました。

クロス集計の地区市民センター区分

自然度	区 分	地区市民センター名
低  高	主に市街地の居住地区	厚木北・厚木南・睦合南・南毛利・相川・緑ヶ丘・愛甲 (計 7 地区)
	主に市街地と田園地帯の居住地区	睦合北・依知北・依知南・森の里 (計 4 地区)
	主に田園地帯と山間の居住地区	荻野・小鮎・玉川 (計 3 地区)

※市外は、区分に含んでいない。

次に、5 つの水辺の将来イメージについての結果概要、アンケートの設問と回答を示します。

■結果概要

- 大河川の水辺
自然保全・創出型と利用型の両面が求められているが、市街化が進むほど利用型の要望も多くなる傾向が見られる。
- 中小河川の水辺
散策コースとしての水辺を望む意見が約半数を占め、子ども達の遊びや学習の場と生き物生息空間を望む意見は、同数程度見られる。
- 山間の水辺
季節変化のある水辺を望む意見が約半数を占め、レクリエーションしやすい水辺と自然環境を優先した水辺を望む意見は、同数程度見られる。
- 田園の水辺
自然や農とふれ合える空間としての農業環境を望む意見が多い。特に、市街地と山間・田園に居住している市民は、生き物とのふれあいや子ども達の遊び場を望む意見が多く、最も農地に恵まれた田園・市街地に居住している市民は、農業体験の水辺を望む意見も多い。
- 市街地の水辺
水辺の散策路、水源地の保全・活用、人々が集まる水辺のシンボル空間のそれぞれを望む意見が見られる。
- 自由記述
自由記述では、次の内容が多く見られた。(計 22 通)
 - i) 多自然を望む意見
ヨシが自生できる環境、水の流れと小石や砂がある自然の河川 等
 - ii) 親水化を望む意見
もっと身近に水に触れて魚や蛍などを見られる場所 等
 - iii) 安全を望む意見
子ども達が自由に遊んでもいいように安全面に配慮注意した整備 等
 - iv) 生物の生息を望む意見
湧き水を利用したホタルが生息できる場所 等

■アンケートの設問と回答

①大河川の水辺（相模川、中津川）についての問

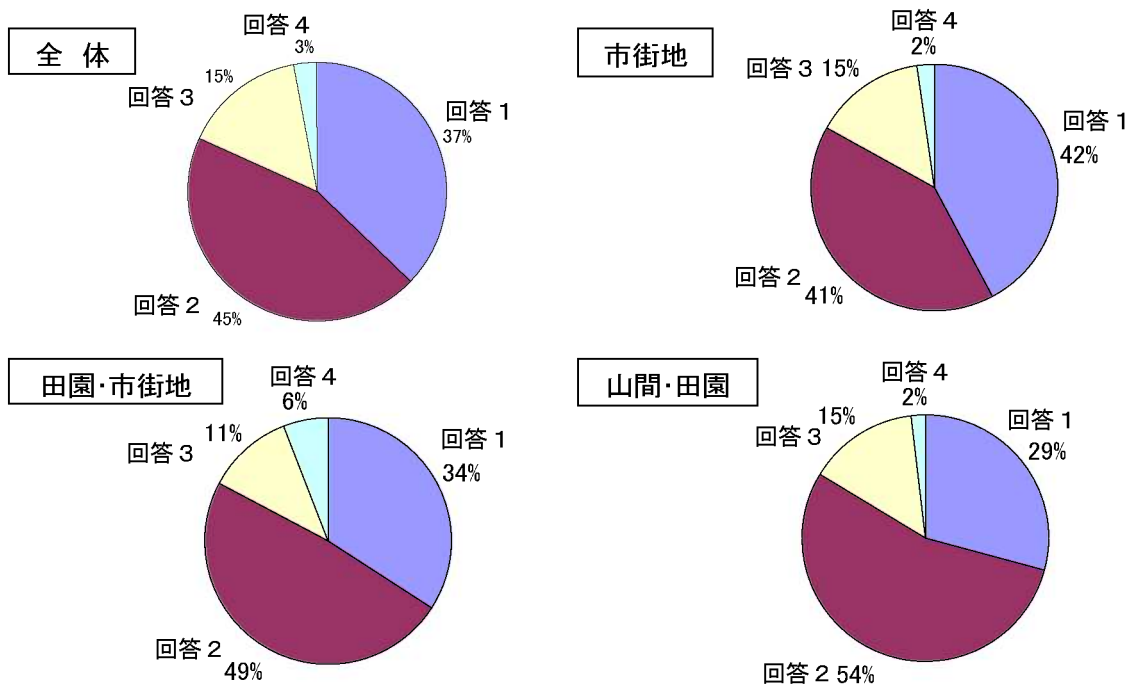
番号	項目(大河川の水辺の将来イメージ)
1	・ 広い河川敷を活かしたスポーツ広場や河川沿いの歩道で散策などが行える水辺。
2	・ 自然環境豊かな箇所を保全・創出し、子供から大人まで自然景観を楽しめる水辺。
3	・ イベントや花壇づくりなどで人々が集い、カヌーや釣りなどのレジャーで賑わいのある水辺。
4	・ その他

・ 単純集計結果（全体）

自然保全・創出型（回答2）を望む意見が4割強（45%）で最も多く、次いでスポーツ、散策などの利用型（回答1）を望む意見が4割弱（37%）となっており、自然保全・創出型と利用型の両面が求められている。

・ クロス集計結果

山間・田園に居住の市民からは、自然保全・創出型（回答2）を望む意見が6割弱（54%）を占め多かった。これに対し、市街化が進むほど利用型（回答1）の意見も多くなる傾向が伺え、市街地近隣に居住の市民からは、大河川の広大な河川敷オープンスペース利用の要望が高いことが伺える。



- 回答1 広い河川敷を活かしたスポーツ広場や河川沿いの歩道で散策などが行える水辺。
- 回答2 自然環境豊かな箇所を保全・創出し、子供から大人まで自然景観を楽しめる水辺。
- 回答3 イベントや花壇づくりなどで人々が集い、カヌーや釣りなどのレジャーで賑わいのある水辺。
- 回答4 その他

②中小河川の水辺（平地部の荻野川、小鮎川、恩曾川、玉川 等）についての問

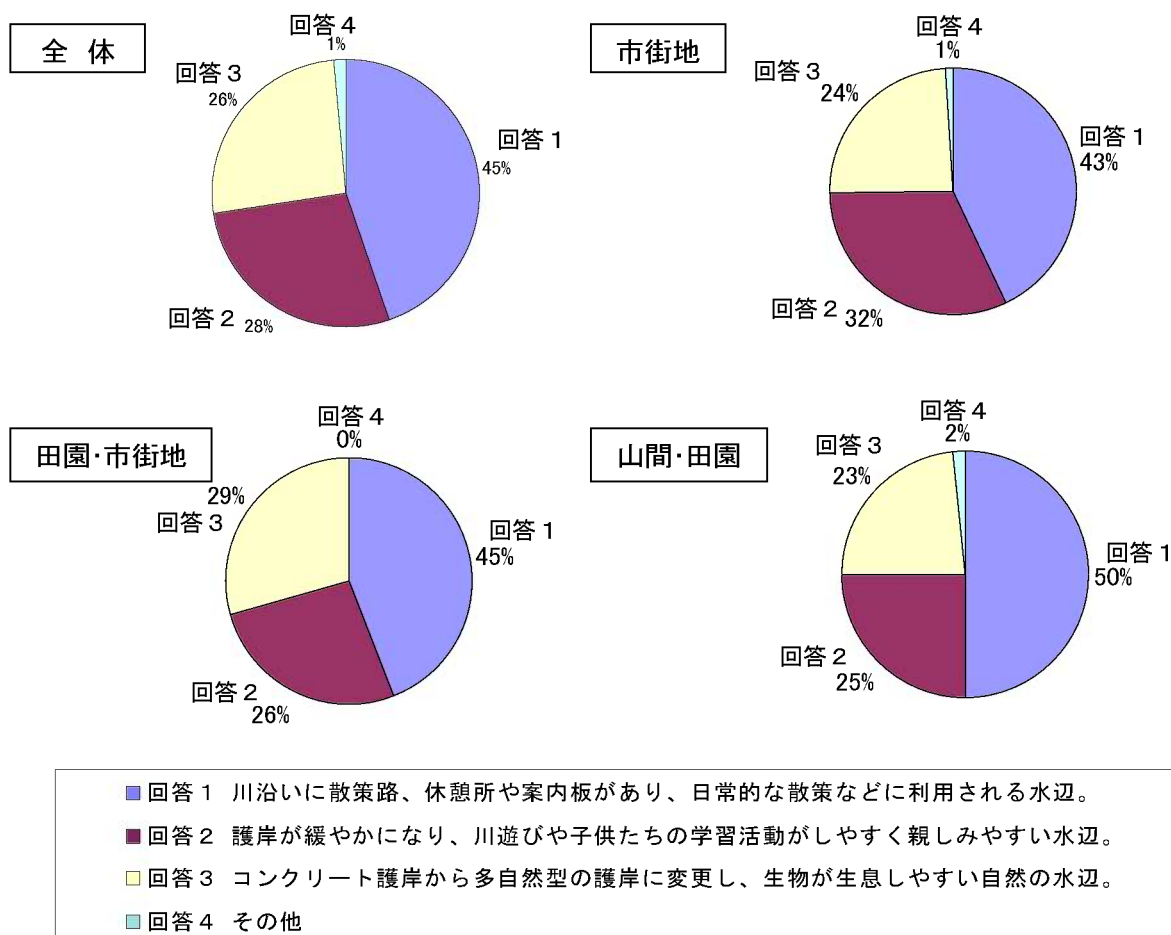
番号	項目(中小河川の水辺の将来イメージ)
1	・川沿いに散策路、休憩所や案内板があり、日常的な散策などに利用される水辺。
2	・護岸が緩やかになり、川遊びや子供たちの学習活動がしやすく親しみやすい水辺。
3	・コンクリート護岸から多自然型の護岸に変更し、生物が生息しやすい自然の水辺。
4	・その他

・ 単純集計結果（全体）

散策コースとしての水辺（回答1）を望む意見が約半数（45%）を占め、次いで子供たちの遊びや学習の場（回答2）と生き物生息空間（回答3）を望む意見がほぼ同数3割弱見られた。

・ クロス集計結果

山間・田園に居住の市民は、散策コースとしての水辺（回答1）を望む意見が過半数を占めている。これに対し、市街地に居住の市民は、子ども達の遊びや学習の場（回答2）を望む意見が3割強と他より多くなっている。



③山間の水辺（山間部の河川及び支流、滝、湧水 等）についての問

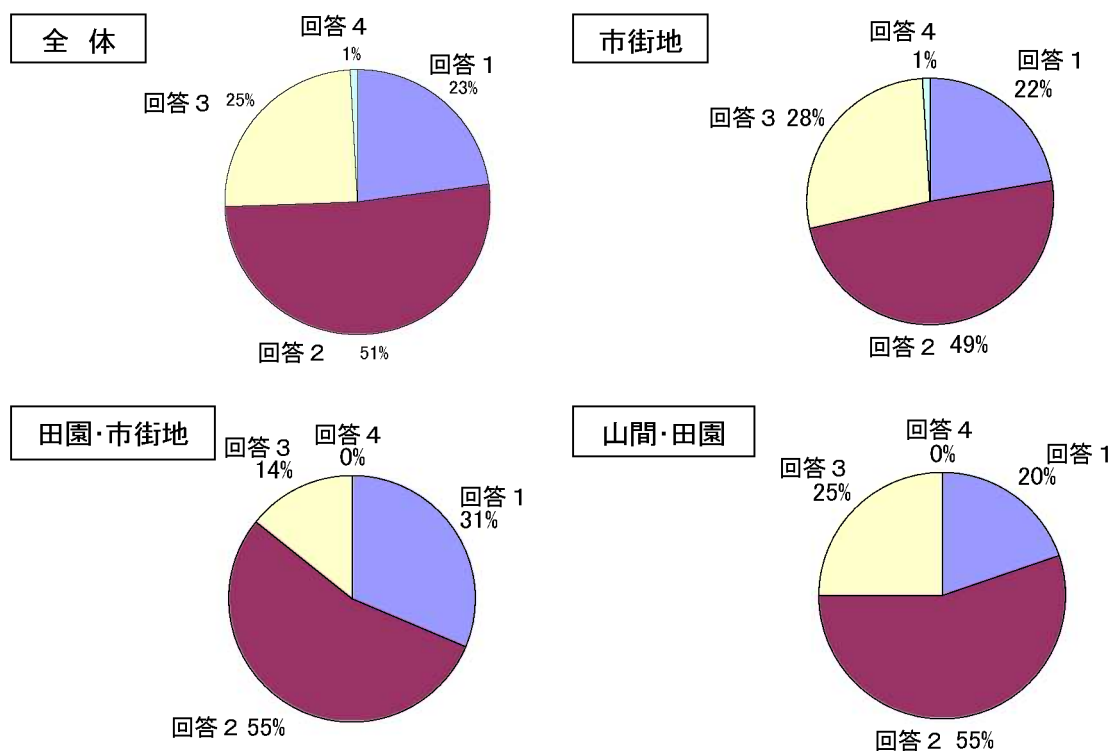
番号	項目(山間の水辺の将来イメージ)
1	・溪流沿いの散策や釣り、滝めぐりなどのレクリエーションがしやすい活動できる水辺。
2	・花づくりやホタル観賞などにより、季節の変化がある水辺。
3	・自然環境をできるだけ保全しながら、治水などの施設機能を維持していく水辺。
4	・その他

・ 単純集計結果（全体）

季節変化のある水辺（回答2）を望む意見が約半数（51%）を占め、レクリエーションしやすい水辺（回答1）と自然環境を優先した水辺（回答3）を望む意見がほぼ同数程度見られる。

・ クロス集計結果

市街地と山間・田園に居住の市民は、全体とほぼ同様の傾向にある。これに対し、田園・市街地に居住の市民は、レクリエーションがしやすい活動できる水辺（回答1）を望む意見が3割と若干多くなっている。



- 回答1 溪流沿いの散策や釣り、滝めぐりなどのレクリエーションがしやすい活動できる水辺。
- 回答2 花づくりやホタル観賞などにより、季節の変化がある水辺。
- 回答3 自然環境をできるだけ保全しながら、治水などの施設機能を維持していく水辺。
- 回答4 その他

④田園の水辺（水路、水田 等）についての問

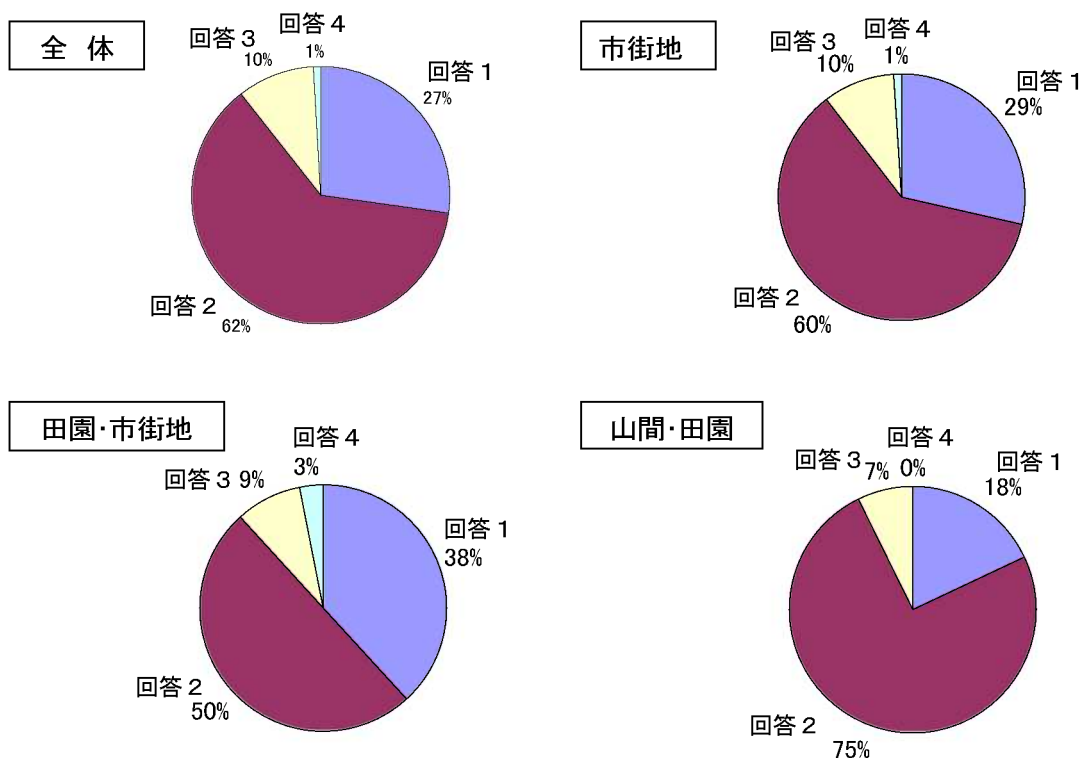
番号	項目(田園の水辺の将来イメージ)
1	・ 田んぼを使った学校農園や農業体験により地域農業にふれあえる水辺。
2	・ 用水路などを昔ながらの小川のようにし、生物とのふれあいや子供たちが楽しめる水辺。
3	・ コンクリートなどで作られた機能的な用水路を適正に維持し、水田など耕作しやすい水辺。
4	・ その他

・ 単純集計結果（全体）

生き物とのふれあいや子ども達の遊びの場（回答2）を望む意見が6割強（62%）で圧倒的に多く、次いで農業体験の水辺（回答1）が3割弱（27%）と続いており、自然や農とふれ合える空間としての農業環境を望む意見が多いことが伺える。

・ クロス集計結果

市街地と山間・田園に居住の市民は、生き物とのふれあいや子どもの遊び場（回答2）を望む意見が圧倒的に多い。これに対し、最も農地に恵まれた田園・市街地に居住の市民は、農業体験の水辺（回答1）を望む意見が4割と多くなっている。



- 回答1 田んぼを使った学校農園や農業体験により地域農業にふれあえる水辺。
- 回答2 用水地などを昔ながらの小川のようにし、生物とのふれあいや子供たちが楽しめる水辺。
- 回答3 コンクリートなどで作られた機能的な用水路を適正に維持し、水田など耕作しやすい水辺。
- 回答4 その他

⑤市街地の水辺（湧水、地下水、水路、公園・広場の池 等）についての問

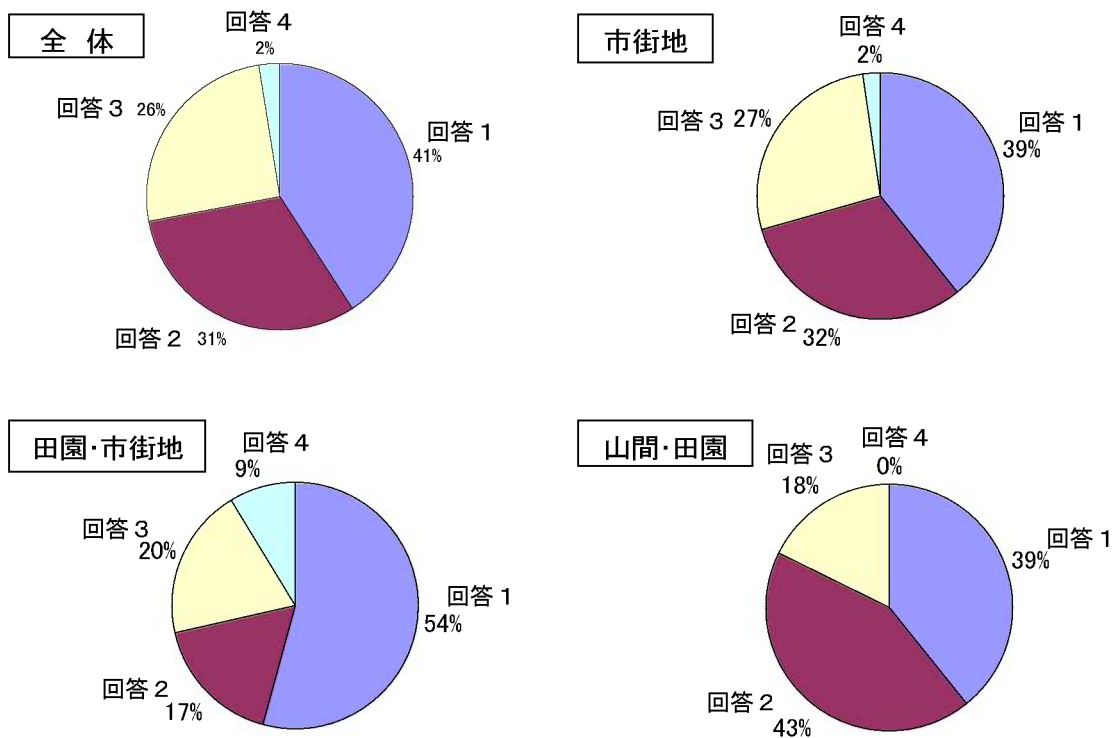
番号	項目(市街地の水辺の将来イメージ)
1	・水路敷や歩道に水があるせせらぎを整備し、水辺の散策路を創出する。
2	・湧水や井戸などを市街地の貴重な水源地として保全・活用する。
3	・駅前広場や公園などの人々が集まるスペースを水辺がある場として創出する。
4	・その他

・ 単純集計結果（全体）

水辺散策路の創出(回答1)が4割(41%)、水源地の保全・活用(回答2)が3割(31%)、人々が集まる水辺シンボル空間の創出(回答3)が3割弱(26%)と、大きな偏りは見られない。

・ クロス集計結果

市街地と山間・田園に居住の市民は、全体とほぼ同様の傾向にある。これに対し、田園・市街地に居住の市民のみ、水辺の散策路(回答1)が過半数を占め、散策空間としての水辺への期待が伺える。



- 回答1 水路敷や歩道に水があるせせらぎを整備し、水辺の散策路を創出する。
- 回答2 湧水や井戸などを市街地の貴重な水源地として保全・活用する。
- 回答3 駅前広場や公園などの人々が集まるスペースを水辺がある場として創出する。
- 回答4 その他

- ・自由記述

<将来への期待>

将来への期待は、「遊んだり川に近づける水辺」、「自然を大切に」、「水辺を安全に」といった意見が多く挙げられています。

遊んだり川に近づける水辺

- ・子ども達が素足でも遊べる水辺の創出。
- ・川が多いので、もっと身近に水にふれて、魚やホタルを見ることができるとよい。
- ・水の潤いと安らぎを大切にすまちづくりに賛同します。水の自然な流れを生かしてほしい。

自然を大切に

- ・ヨシが自生するような自然環境が望ましい。
- ・人工的に手を加えず自然のままでありながら、安全面には力点を置いた環境づくり
- ・水の流れと小石、砂がある自然の河川を期待する。

水辺を安全に

- ・自然豊かな環境はほしいが、自然災害にあわないよう対策をしっかりとしてほしい。
- ・子ども達が遊んでも良いように、安全面に十分に注意した整備をしてほしい。
- ・水路部や土手が暗いので、もう少し明るくして安心して通行できる町になってほしい。

生物が生息できる水辺

- ・水辺は、生物にとって一番大切なので、そのことを基本として進めてほしい。
- ・湧き水などで、魚やカエル、ホタルが住み着く池にしたい。

十分な維持管理

- ・水路を整備して、夏のくさい水の管理をしっかりとしてほしい。
- ・水辺の不法投棄を撤去してください。

レクリエーションや学習の場としたい

- ・水辺をレジャーや学校学習に利用することに賛成です。市外からも観光客などが来るようになると思われるので、環境汚染への配慮が必要です。

花いっぱい

- ・水路で花に水をやれるようにしてほしい。